

公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成31年3月1日(金曜日) 9時50分頃			工事関係者区分	元請け
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	ガス管(φ20mm)損傷			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	下水道工事(側溝布設)						
事故概要	側溝布設のため、バックホウにて掘削作業中にガス供給管(φ20mm)を破損させた事故である。						
事故原因	当該供給管は事前に移設を行っていたため、掘削断面内に切り回し箇所が出現しないと思い大丈夫だろうと掘削を行ったことと、移設した供給管を事前に手掘りにての確認を怠り機械掘削を行ったことが原因である。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・事故後再発防止研修の実施。 ・事前に人力掘削を行い埋設物の露出確認をし、引き込み先と切り回し箇所にマーキング等の保安措置を講じる。 ・埋設深さも作業従事者及びオペレーターに周知を図る。 						

事故状況図



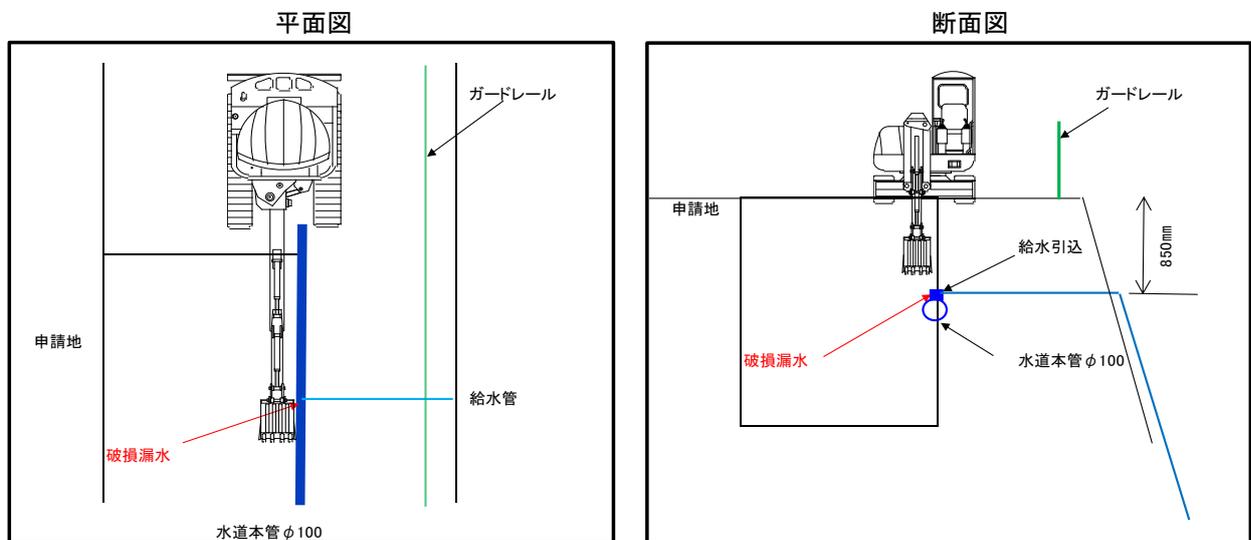
改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年 3月 2日(土曜日) 11時30分			工事関係者区分	元請け
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢		業種区分	土木
被災程度	給水管φ25分岐部破損			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	公共汚水柵及び取付管設置工事						
事故概要	公共汚水柵設置工事において、地下埋設物管理者の管理図と現地を照合し事前調査を行っていたにもかかわらず、現地の地形から給水管が引き込まれてないだろうと思い込み機械掘削を継続したところ、給水管φ25分岐部に接触し破損させたもの。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> 埋設位置のマーキングを怠ったこと。 埋設標識テープが確認されたにもかかわらず、機械掘削を継続し人力掘削に切り替えなかったこと。 						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 作業には直接従事しない別の作業班から安全管理者を選定し、地下埋設物の埋設状況再確認と、下記の前回指導事項の遵守を再徹底するため、安全訓練を行った。 作業前のKY活動において、地下埋設物の状況を指さし確認やマーキングで明確にし、作業従事者全員で共有する。 掘削作業中に、埋設標識テープが確認されたら、人力掘削に切り替える。 埋設標識テープに関わらず、各事業者の台帳上での埋設深に30cmまで迫ったら、人力掘削に切り替える。 						

事故状況図



改善状況図



再発防止安全訓練



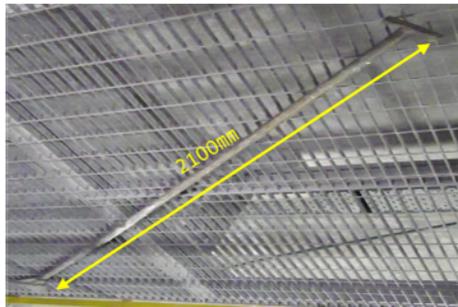
作業前KY活動時のマーキング及び指さし確認

公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	平成31年 3月 1日(金曜日) 15時50分			工事関係者区分	元請け
事故区分	工具等取扱	性別	男性	年齢	39	業種区分	設備
被災程度	右手環指打撲・擦過傷			事故レベル	I	休業見込日数	不休
工事概要	装置内に溜まった灰を点検口から突き崩す作業						
事故概要	装置内に溜まった灰を点検口から突き棒を差し込み突き崩している時、灰が固く力を入れて突いていたが、柔らかい部分があったため、突いた際に勢いで手をつっ込みすぎて、右手薬指を点検口の縁に激突し、打撲と裂傷を負った。						
事故原因	1)灰が固く力を入れて突き崩している際に、予想に反して柔らかい灰があったため、勢いで手をつっ込みすぎた。 2)突き棒が持ち手の位置まで突っ込める状態であったことから点検口の縁に指が激突した。						
改善策	1)灰を突き崩す際に灰の固さに注意するよう指導を行った。 2)突き棒の持ち手部分へ防護材を取付けた。 また灰を突き崩す作業に類似した作業について作業方法等の見直しを行うとともに、KY活動の強化を行った。						

事故状況図

被災者は灰を突き崩す際に勢いよく手をつっ込みすぎたため、手を点検口の縁に激突させて負傷した。



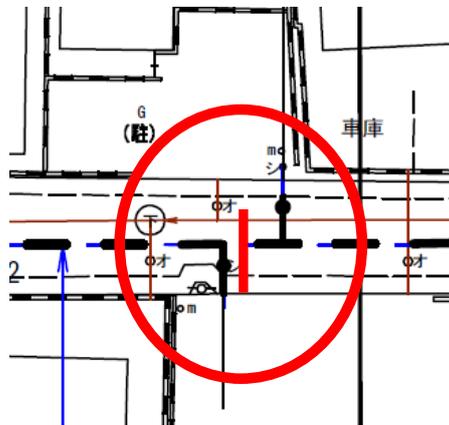
改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成31年3月2日(土曜日)11時00分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	ガス管(φ25ポリエチレン管)を破損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	配水管布設工事						
事故概要	新設管を布設するため機械掘削をした際に、ガスの供給管を破損させたもの。						
事故原因	ガス管の埋設位置については、人力掘削にて一部分を確認していたが、確認箇所より民地寄りにおいては、ガス管が真上に曲げられ、浅く配管されていた箇所にバックホウのバケットが触れて破損させたことから、ガス管の人力による確認が不十分であったため。						
改善策	安全訓練を行い、再発防止として下記のことを実施する。 ・地下埋設物のマーキング箇所の入念な確認を行う。 ・地下埋設物付近を掘削する際は、人力にて慎重に掘削し、埋設物の一部だけでなく全部の確認を行う。						

事故状況図



改善状況図

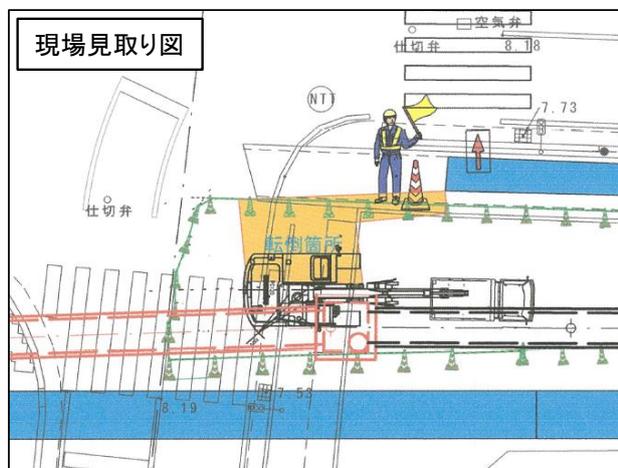


再発防止に向けた安全訓練を実施

公共工事等事故情報

事故分類	その他	発生日時	平成 31年 3月 4日(月曜日) 9時 30分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	建設機械等	性別	男性	年齢	51	業種区分	土木
被災程度	なし	事故レベル	I			休業見込日数	-
工事概要	函渠布設工						
事故概要	9時30分頃、土留工に使用する軽量鋼矢板(L=2.5m 20枚 740kg)を0.18m3バックホウ(クレーン仕様機0.99t吊り)で、2tダンプトラックから吊り降し作業中、バランスを崩してバックホウが転倒した。通行人・重機オペレーターにケガはありませんでした。						
事故原因	機械の足場が傾斜していたことと、機械の排土板がない方でクレーンモードを使用せず、吊り降しをしたことが原因です。						
改善策	吊り降し作業は、機械の足場のチェック及び排土板のある方でクレーンモードで作業します。作業前にKY活動で周知徹底をして作業に取り掛かります。						

事故状況図



軽量鋼矢板(L=2.5m 740kg)を吊り降し中、バランスを崩して転倒した。

改善状況図



- ・機械の足場の水平確保
- ・排土板を確実に下げる
- ・吊り降しはクレーンモードで作業する

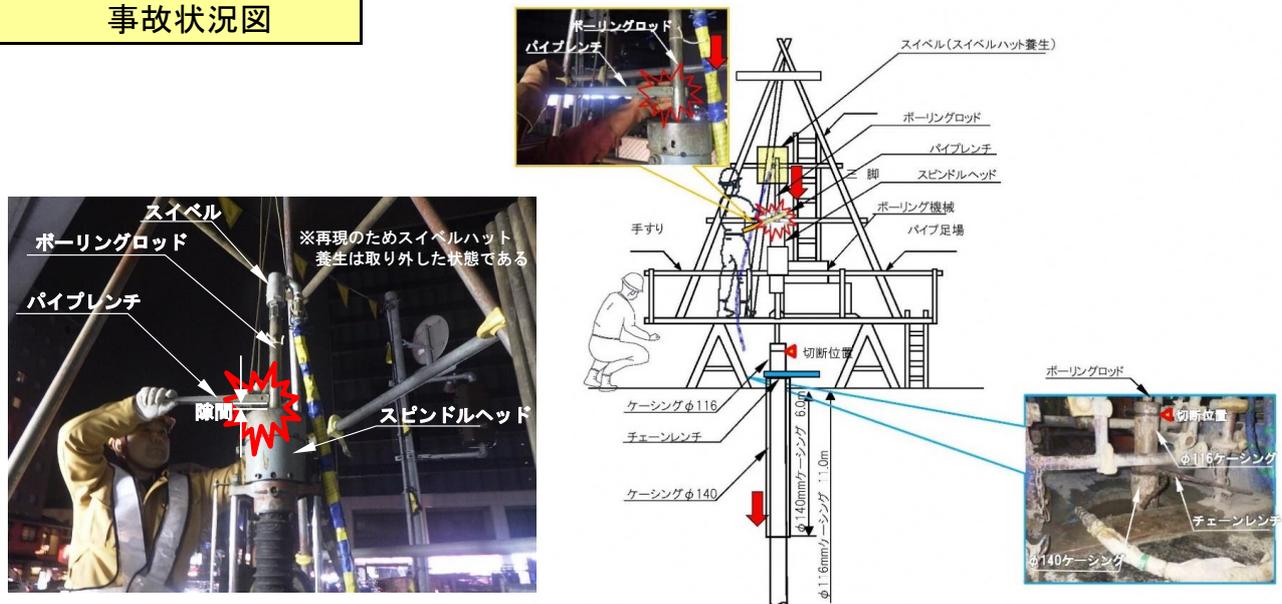


- ・KY活動で周知徹底

公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	平成 31年 3月 9日(土曜日) 23時20分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	その他	性別	男性	年齢	43	業種区分	土木
被災程度	左手小指切創 七針縫合			事故レベル	I	休業見込日数	0日
工事概要	地下鉄七隈線延伸工事						
事故概要	シールド工事に伴う地盤の影響を計測する計測機器(多段式傾斜計)を設置するため、ボーリングマシンを用いてケーシング管を建て込む作業を行っていたところ、ケーシング上部を切り離そうとした際、下部ケーシングを固定していたチェーンレンチがゆるみ、上部ボーリングロッド含むケーシング全体が降下、ボーリングロッドに装着していたパイプレンチとボーリングマシン頭部(スピンドルヘッド)の間に作業員(被災者)の左指が挟まれ負傷した。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> 指を挟む可能性のある場所に手を添えて作業した 重量が大きいφ116のケーシングをチェーンレンチで固定していた 						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> パイプレンチでロッドを回転させる際は、パイプレンチを下部設備との隙間がない(指が入らない)位置で行う ケーシングを切り離す際、下部ケーシングは事前に落下防止措置としてケーシングバンドにて確実に固定する ケーシングバンドを取り外す際は、油圧チャックを確実に締めたことを確認する 						

事故状況図



改善状況図

改善状況(全景)



パイプレンチによるロッド回転状況(下部設備との隙間なし)



ケーシングバンド使用状況

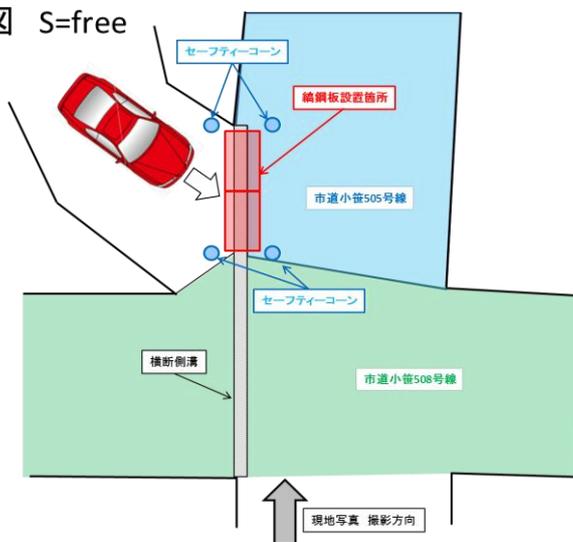


公共工事等事故情報

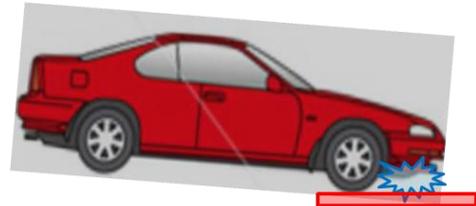
事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成31年 3月 6日(水曜日) 8時00分			工事関係者区分	元請け
事故区分	自動車等	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	車両バンパーを損傷			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	舗装打ち換え, 側溝更新工事						
事故概要	横断側溝の据替え工事のために設置していた覆工板(縞鋼板)に, 被災車両のバンパーが接触し, これを破損させたもの。(当該箇所は急傾斜地であり, 車両通過時に車両底部が舗装と接触しやすい地形である。)						
事故原因	被災車両が普段通行していた勾配の緩やかな個所を通行不可としていたにもかかわらず, 安全に通行できる勾配に縞鋼板が設置されていた。						
改善策	受注業者にて社内研修を実施し, 今後の工事において以下項目の順守徹底する。 駐車場等への車両乗り入れ箇所において縞鋼板等の設置を行う場合, 当該駐車場へ普段出入りしている状況等を十分に把握したうえで, これらの通行に支障のないよう, 勾配確保等の検討を行う。						

事故状況図

平面図 S=free



縦断面図 S=free



市道小笹505号線から S=free



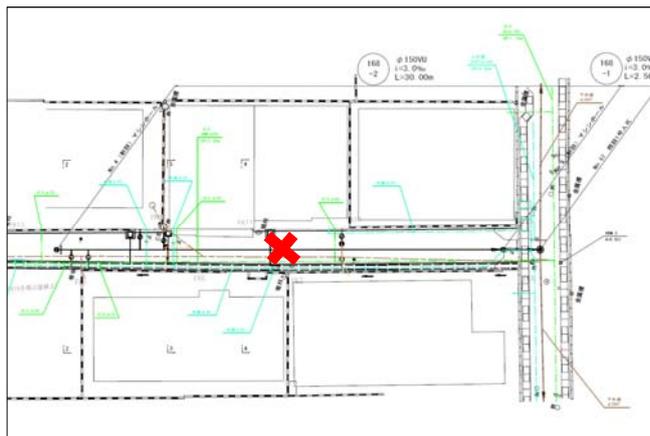
改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成31年3月11日(月曜日) 9時45分頃			工事関係者区分	元請け
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	仮設給水管(φ20mm)損傷			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	—
工事概要	下水道工事(私道整備)						
事故概要	下水道取付管布設のため、バックホウにて掘削作業中に仮設給水管(φ20mm)を破損させた事故である。						
事故原因	給水管の埋設位置は認識していたが、不注意により、バックホウ掘削中に給水管を破損させたもの。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・事故後再発防止研修の実施。 ・当現場が砂利道でもあるため、マーキング以外に木杭等で埋設位置の確認を図る。 ・毎朝のKY活動により、地下埋設物の位置確認等を行い、事故防止に対する意識を高める。 						

事故状況図



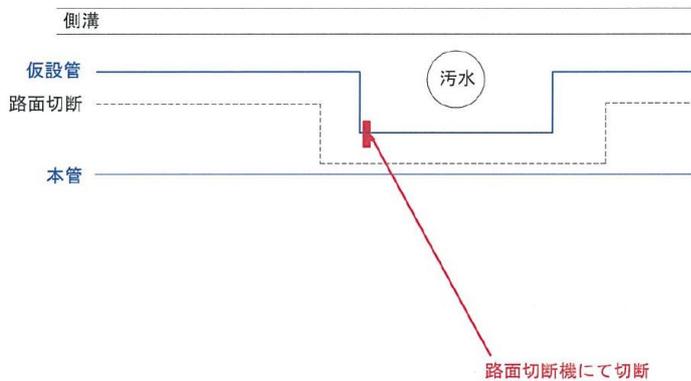
改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成31年 3月 4日(月曜日) 14時30分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	仮設水道管の破損			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	—
工事概要	配水管布設工事						
事故概要	仮設水道管撤去のために路面切断を行っていたところ、仮設管切回し部を路面切断機で切断した。						
事故原因	・仮設管の埋設位置を正確に路面切断業者に伝えていなかった。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的に撤去する仮設管について、撤去作業を行うにあたり、特に迂回路部等において、正確に位置が把握できるよう対策を講じるよう見直した。 ・舗装切断等の作業を行う際、事前に地下埋設物の位置等について、関係する作業者と入念に打合せを行うとともに、現地での指差し確認を行うなどの周知・徹底をはかるよう見直した。 						

事故状況図



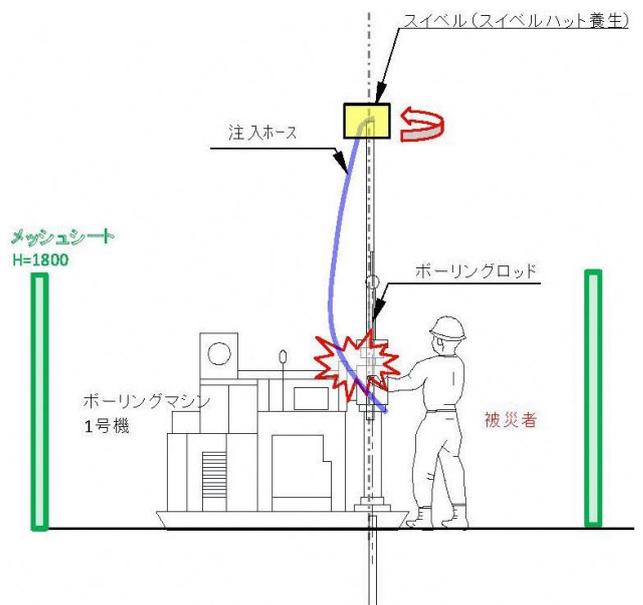
改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	平成 31年 3月 12日(火曜日) 12時10分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	その他	性別	男性	年齢	39	業種区分	土木
被災程度	左手首・左手尺骨骨折			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	30日
工事概要	地下鉄七隈線延伸工事						
事故概要	シールドマシン発進防護を目的とする薬液注入作業において、注入しながらボーリングロッドのステップアップ作業を行っていた際、地盤が固かったため、ロッドを回転させながら引き上げていたところ、作業員(被災者)の左手手首がボーリングマシンのロッドとホースの間に巻き込まれ負傷した。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> ・ホースが巻き付いた際、ロッドの回転を止める緊急停止措置を行わずに、反射的にホースを掴んでしまった。 ・作業手順において、「ホースがロッドに巻きつかないようにロープで控えをとる手順」が常にロッドを回転させる作業が発生する「削孔時のみ」であった。 						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッド回転時にはホースに触らない(現場に掲示して「見える化」) ・ホースがロッドに巻き付いた際は緊急停止措置をとる(現場に掲示して「見える化」) ・「ロッド回転時にホースがロッドに巻きつかないようにロープで控えをとる」を作業手順に追加する ・JV管理体制の強化として、新たに安全巡視指導員を配置する 						

事故状況図



改善状況図

緊急停止措置作動確認
(緊急停止ボタン、クラッチレバー)



ホース巻き込まれ防止措置状況
(ロープによる控え)



掲示物による「見える化」



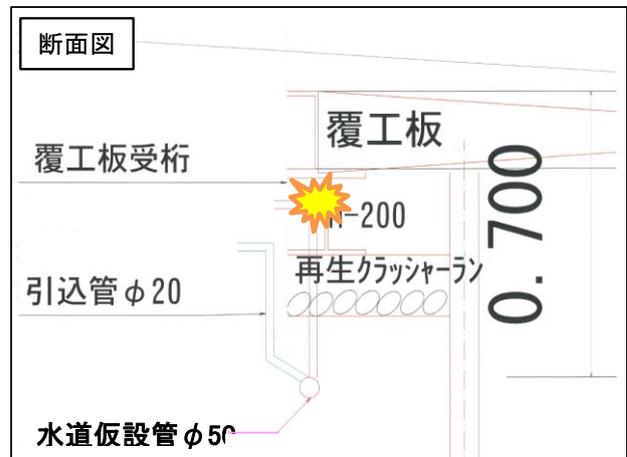
公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成 31年 3月22日(金曜日) 11時 45分			工事関係者区分	元請け
事故区分	埋設物等損傷	性別	男性	年齢	56	業種区分	土木
被災程度	断水(6家屋 10分間 , 2家屋 2時間)		事故レベル	II		休業見込日数	-
工事概要	函渠布設工						
事故概要	覆工板設置の為の床掘(GL-550)を0.2m3バックホウで掘削中、水道仮設管φ50mm(GL-800)から宅内への引込箇所の給水管φ20mmの立上り部分(GL-370)を破損しました。						
事故原因	GL-800程度に水道仮設管(φ50mm)が埋設されているのは把握しておりましたが、引込給水管φ20mmが覆工板設置の位置に立ち上がっていることを把握していなかった。 (事前に水道局と協議(GL-600以下に埋設してもらうように打ち合わせ)を行っていたため、掘削範囲内にはないものと考えていた。)						
改善策	事故後、水道の宅内引き込み箇所は、水道管(給水管)が出るまで先行人力掘削を行い、管の位置を確認後、機械掘削を行う。 (その際、監督員の立ち合いを受ける。)						

事故状況図



覆工板設置のための床掘作業中、バックホウで給水管を破損させた。



改善状況図



・先行人力掘削にて、水道管(給水管)の位置を確認後、機械掘削を行う。
(その際、監督員立ち合いを行う。)



・事故後、再発防止会議を実施。